(1)

、 ソースコードは付属のPDFとして添付した。 コードについての説明の詳細もそちらにコメント形式で記述した。

例として、数値20を代入した場合(sx.i = 20, sx.u = 20, sx.f = 20, dx.d = 20)の出力結果(bit pattern)は以下の通り。表示されているビット順は、左に行くほど上位ビット、右に行くほど下位ビットとなっている。

(2)

使用したコンピュータ、コンパイラ情報はこちら:

- M1 Macbook Air (late 2020)
- ARM64 (customized ARMv8 by apple)
- OS Version: macOS 12.4
- Compiler: gcc (Apple clang version 13.0.0 (clang-1300.0.29.30))

## unsigned int:

1,-1, UINT\_MAXの値をそれぞれ出力した結果は以下の通り。

```
1:

00000000 0000000 0000000 00000001

-1:

11111111 11111111 11111111

4294967295:

11111111 1111111 11111111
```

unsigned intは32ビットであり、最上位ビットは符号ビットではなく通常のビットとして扱われる。-1を入れた場合、全体のビットが反転していることから、マイナスの値は補数表現として取り扱われるものの、unsigned intとして読み出した場合はUINT\_MAXの値として扱われるとわかる。

## int:

1,-1, INT MAX, INT MINの値をそれぞれ出力した結果は以下の通り。

```
1:

00000000 00000000 00000000 00000001

-1:

11111111 11111111 11111111 11111111

2147483647:

01111111 11111111 11111111 11111111

-2147483648:

10000000 00000000 00000000 00000000
```

intは32ビットであり、最上位1ビットは符号ビットとして扱われる。マイナスの値は補数表現として取り扱われるため、0と1が反転している。

## float:

1, -1, FLOAT MAX, FLOAT MINの値をそれぞれ出力した結果は以下の通り。

```
0:

00000000 0000000 0000000 00000000

1:

00111111 1000000 0000000 00000000

2:

01000000 0000000 0000000 00000000

-1:

10111111 1000000 0000000 00000000

3.402823e+38:

01111111 0111111 1111111 11111101

-3.402823e+38:

00000000 00000000 00000000 00000001
```

floatは最上位1ビットが符号ビット、仮数部が8ビット、仮数部が21ビットの計32bitで構成されている。0を表す際は、仮数部、指数部ともに全てのビットが0になっている。2の値の例を見ると、これは通常のIEEE 754で規定されたフォーマットに従っており、仮数部を127とすることで、 $(-1)^0$ \* (1+0+0+...)\*  $2^0$  = 2 と表現されていることがわかる。

## double:

1,-1, DOUBLE MAX, DOUBLE MINの値をそれぞれ出力した結果は以下の通り。

doubleは最上位1ビットが符号ビット、仮数部が11ビット、仮数部が52ビットの計64bitで構成されている。2の出力結果例から、float同様IEEE754準拠のフォーマットであることがわかり、floatを64bitに拡張したような形式であるとわかる。

(3)

それぞれの出力結果は以下の通り。exponent(指数部)で表現されているとわかる。 0徐算に関する値(無限大)はいずれも仮数部11bitが全て1となっており、符号を最上位 1ビットで表している。

(上から順に 1.0/0.0, -1.0/0.0, 0.0/0.0, 2^1000です)